

Accuphase

STEREO CONTROL CENTER

ステレオ・コントロールセンター

C-2000

取扱説明書



ご使用前に、この「取扱説明書」と別冊の「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。お読みになったあとは、お客様カードと引きかえにお届けいたします「品質保証書」と一緒に大切に保存してください。

このたびはアキュフェーズ製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

最高峰のオーディオ・コンポーネントを目指して完成されたアキュフェーズ製品は、個々のパーツの選択から製造工程、最終の出荷にいたるまで厳重なチェックを行い、その過程と結果の個々の履歴は、製品全体の品質保証に活かされています。このような品質管理から生まれた本機は、必ずやご満足いただけるものと思います。

未長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

3年間の品質保証と保証書

当社製品の品質保証は3年間です。付属のお客様カードに必要事項を記入の上、お早め(なるべく10日以内に)ご返送ください。お客様カードと引きかえに「品質保証書」をお届けいたします。手続きは10日前後かかります。製品に関するお問い合わせや異常が認められるときは、当社品質保証部またはお求めの当社製品取扱店へ、直ちにご連絡ください。

尚、品質保証は日本国内のみ適用されます。

Accuphase warranty is valid only in Japan.

マークについて

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人身事故の発生する可能性や製品に重大な損害を生じる恐れがあることを示しています。お客様への危害や、機器の損害を防止するため、表示の意味をご理解いただき、本製品を安全に正しくご使用ください。

警告

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性があり、その危険を避けるための事項が示してあります。

注意

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が軽度の傷害を負う可能性や製品に損害を生じる恐れがあり、その危険を避ける為の事項が示してあります。

目次

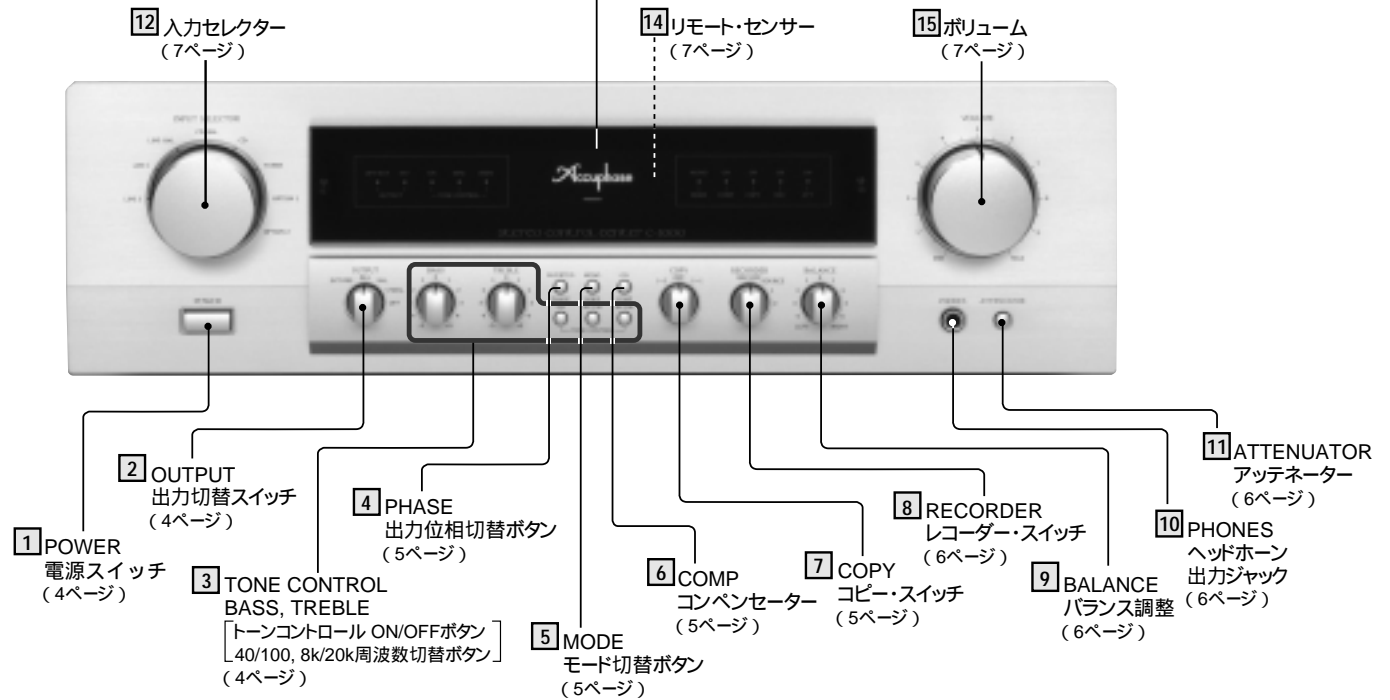
1. 各部の名前	1
フロントパネル、リアパネル	1
2. 接続図	2
3. ⚠️ 警告 安全上必ずお守りください / ⚠️ 注意	3
4. 各部の動作説明	4 ~ 8
5. リモート・コントロール	9
使用法 / 電池について	9
6. ご使用方法	10, 11
CDプレーヤーの演奏	10
チューナーで放送を聴く場合	10
外部プリアンプによる演奏	10
レコーダーで録音・再生をする場合	11
7. オプション・ボード	12 ~ 15
オプションの使用法	
CDなどをデジタル入力で演奏	12
アナログ・ディスク(AD)の演奏	13
オプションの種類	
ライン入力ボード LINE-10	13
デジタル入力ボード DAC-10	13
アナログ・ディスク入力ボード AD-10	14
オプションの取り付け方法	15
8. 保証特性	16
9. ブロック・ダイアグラム	17
10. 故障かな?と思われるときは	18
11. アフターサービスについて	19

1. 各部の名前

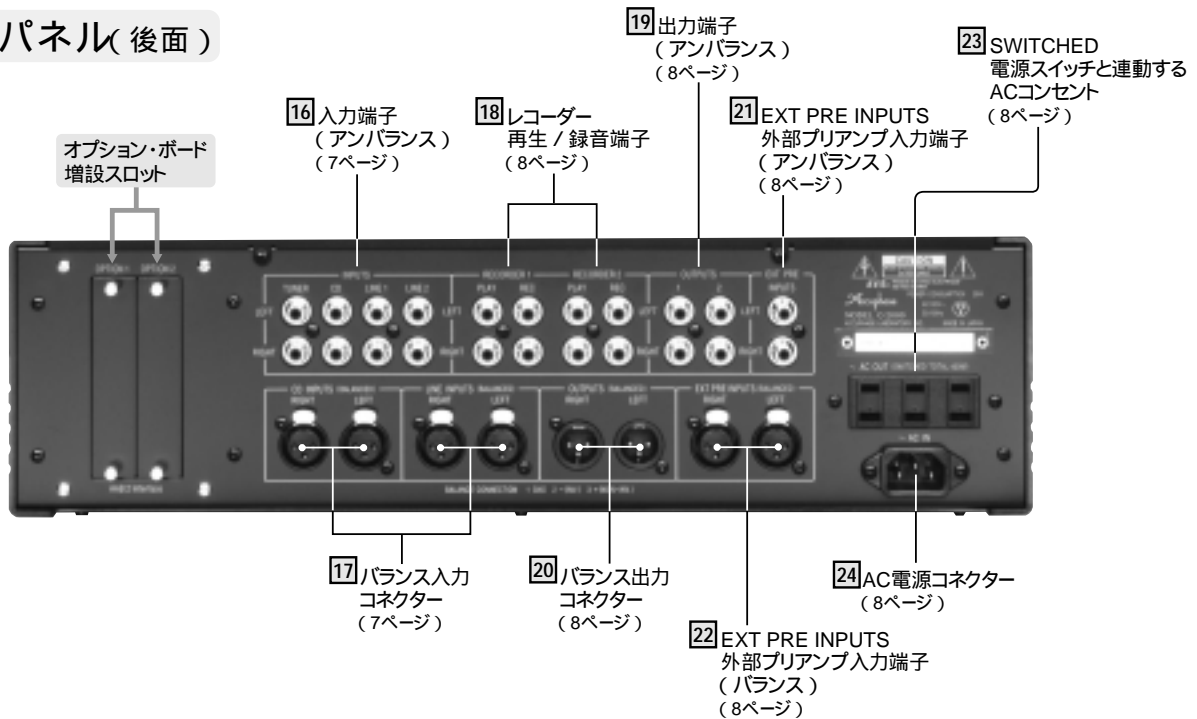
詳しい説明は「各部の動作説明」(4～8ページ)を参照してください。

13 機能ディスプレイ部 各動作状態をLEDの点灯により表示します。(7ページ)

フロントパネル(前面)



リアパネル(後面)



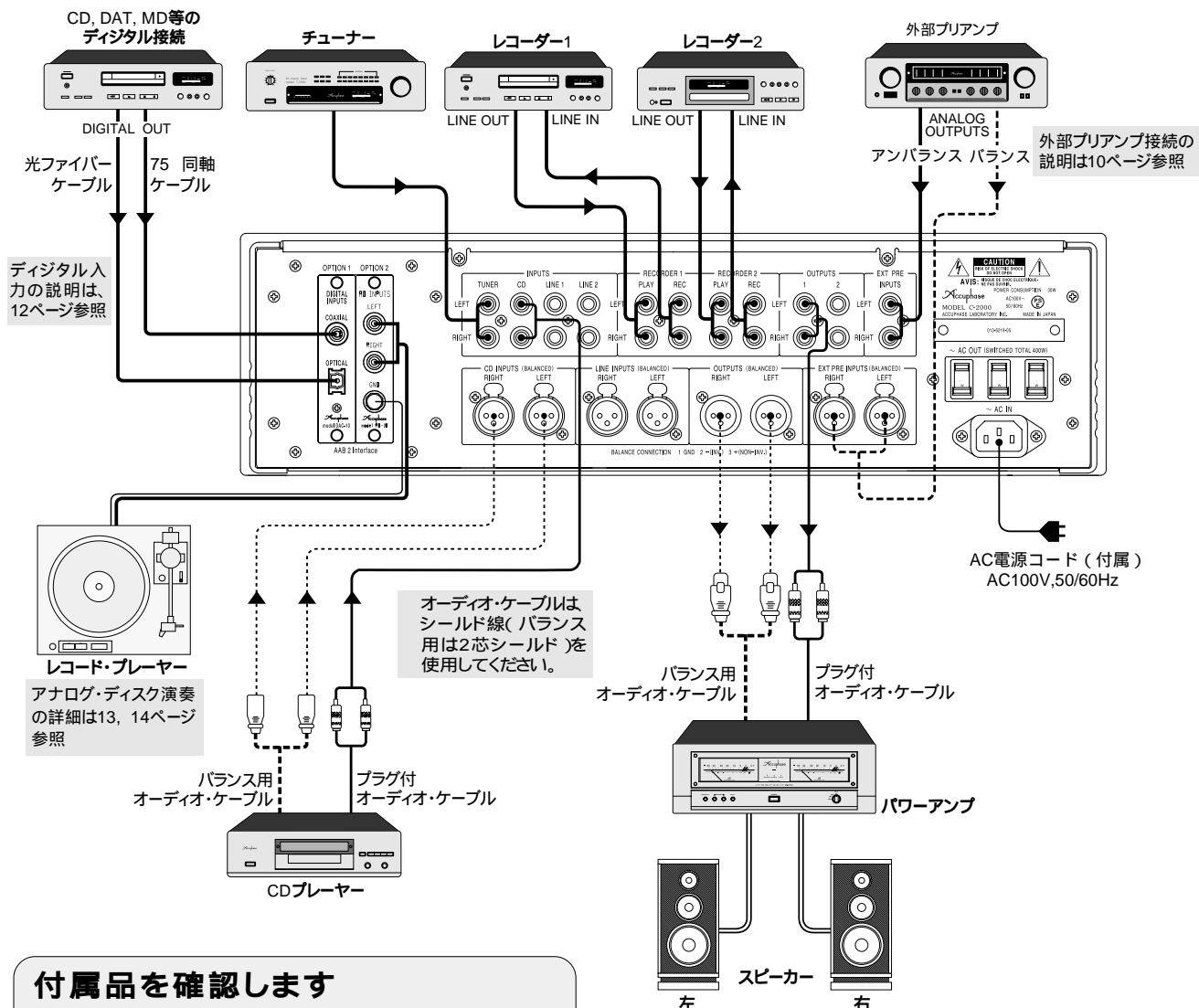
2. 接続図

⚠ 注意 : 接続するときは、必ず各機器の電源を切る。

注意 DAC-10とデジタル機器との接続は、75 同軸ケーブルまたは光ファイバーを使用します。
アナログ入・出力の接続は、オーディオケーブルを使用しLEFT(左)RIGHT(右)を正しくつないでください。
同一機器同士でバランス用とアンバランス用の両ケーブルを同時に接続して使用しないでください。
アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。

イラストはオプション(別売)を増設した場合の接続例

OPTION 1: デジタル入力ボード [DAC-10]
OPTION 2: アナログ・ディスク入力ボード [AD-10]



付属品を確認します

取扱説明書	1冊
安全上のご注意	1冊
お客様カード	1枚
AC電源コード(2m)	1本
プラグ付オーディオケーブル(1m)	1組
単3形乾電池	2個
リモート・コマンダー RC-20	1個

3. **警告** 安全上必ずお守りください

ご使用の前にこの『取扱説明書』と別冊の『安全上のご注意』を良くお読みの上、製品を安全にお使いください。

電源は必ずAC(交流)100V、50Hz/60Hzを使用する。

AC100V(50Hz/60Hz)以外で使用すると、感電や火災の原因となります。

電源コードは取り扱いを誤ると、感電や火災の原因となり危険です。

付属以外の電源コードは絶対に使用しない。

ぬれた手で電源プラグを絶対に触らない。

電源コードの上に重い物をのせたり、本機の下敷きにしない。

電源コードが傷んだら、当社品質保証部または当社製品取扱店にご連絡ください。

脚の交換は危険ですから行わない。取り付けネジが内部の部品に触れると、火災や感電、故障の原因になります。

放熱のため製品の周辺は他の機器や壁等から充分間隔(10cm以上)をとる。

機器の上に水などの入った容器(花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など)を置かない。

密閉されたラック等には絶対に設置しない。通風が悪いと機器の温度が上がり、火災や故障の原因となります。

トップ・プレートや底板は絶対にはずさない。内部に手などで触れると感電や故障の原因となり、大変危険です。

次の場合には、まず本体の電源スイッチを切り、必ず電源コードをコンセントから抜く。

電源スイッチをOFFにただけでは、本機への電源供給が完全に遮断されません。そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。発煙など異常がなくなったことを確認して、当社品質保証部または当社製品取扱店にご連絡ください。

内部に水や薬品がかかった場合。

内部に異物、燃えやすい物やヘアピン、釘、硬貨などが入った場合。

故障や異常(発煙やにおいなど)と思われる場合。落としたり、破損した場合。

注意

設置場所について

次のような場所への設置はさけてください。

通風が悪く、湿気やほこりの多い場所

直射日光の当たるところ

暖房器具の近く

振動や傾斜のある不安定な場所

パワーアンプなど他の機器と直接重ねて使用しない。

長期間使用しないときは、安全のために電源プラグをコンセントから抜く。

電源スイッチのOFF直後(10秒以内)に再びONしない。ノイズ発生などの原因となることがあります。

ヘッドフォンを端子から抜き差しするときは、スピーカーやヘッドフォンから急に大音量が出ないように必ず本機のボリュームを下げる。

オプション・ボードを抜き差しする場合には、必ずC-2000の電源を“OFF”にする。

同一機器同士でバランス用とアンバランス用の両方のケーブルを接続して使用しない。アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。

入・出力コードを接続する場合は、必ず各機器の電源を切る。

RCAタイプのピンプラグをジャックから抜き差しするときは、一瞬グラウンド側が浮いた状態になるため、大きなショック・ノイズを発生し、スピーカーを破損する原因となります。

オプション・ボードを増設してレコードプレーヤーなどを操作するときは、必ず本機のボリュームを下げる。特に、カートリッジを上げたり、下げたりするときは、ボリュームを下げないとスピーカーを破損する原因となります。

出力端子などに接点保護剤などを絶対に使用しない。樹脂部が経年変化で破損して感電や故障の原因となることがあります。

お手入れ

お手入れの場合は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。

本体のお手入れは、柔らかい布を使用してください。固く絞った布で水拭きし、その後乾いた布で拭いてください。ベンジン、シンナー系の液体は、表面を傷めますので使わないでください。

4. 各部の動作説明

1 POWER 電源スイッチ

押すと電源が入り、再び押すと切れます。電源を入れてから回路が安定するまで約3秒間は、ミュート回路が作動しますので出力はありません。

電源スイッチをOFFにすると、OUTPUTスイッチをEXT PREに設定したときと同様に、接続した外部プリアンプの出力を選択することができます。

2 OUTPUT 出力切替スイッチ

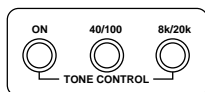
3系統の出力端子を切り替えるスイッチです。

EXT PRE : 接続した外部プリアンプに切り替わります。
 ALL : 全てのOUTPUTS端子から出力されます。
 BAL : バランスOUTPUTS端子を選択します。
 UNBAL : アンバランスOUTPUTS端子(ピンジャック)を選択します。
 OFF : 3系統の出力信号が全て切れます。

通常は「ALL」のポジションでご使用ください。
 「EXT PRE」と「OFF」ポジションのときは機能ディスプレイ部の「OFF/EXT」のLEDが点灯します。
 また、ヘッドフォン使用時にも3系統の出力信号が全て切れ、「OFF/EXT」のLEDが点灯します。
 (設定変更可能 : 6ページの10参照)

3 TONE CONTROL, BASS, TREBLE トーンコントロール

TONE CONTROL ボタン



ON: トーンコントロールON/OFF ボタン

押して「ON」 : 「ON」LED点灯
 再び押すと「OFF」 : 「ON」LED消灯

「ON」でBASS(低音)/TREBLE(高音)コントロールが有効です。
 「OFF」の場合BASS/TREBLEツマミの位置に関係なく、フラットな特性が得られます。
 「OFF」の場合「TONE CONTROL」LEDはすべて消灯します。

40/100: 低音部周波数切替ボタン

BASS(低音コントロール)の周波数を切り替えます。

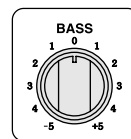
押して「40Hz」 : 「40Hz」LED点灯
 再び押すと「100Hz」 : 「40Hz」LED消灯

8k/20k: 高音部周波数切替ボタン

TREBLE(高音コントロール)の周波数を切り替えます。

押して「20kHz」 : 「20kHz」LED点灯
 再び押すと「8kHz」 : 「20kHz」LED消灯

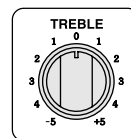
BASS 低音コントロール



低音部(40Hzまたは100Hz)の周波数特性を連続可変でコントロールします。

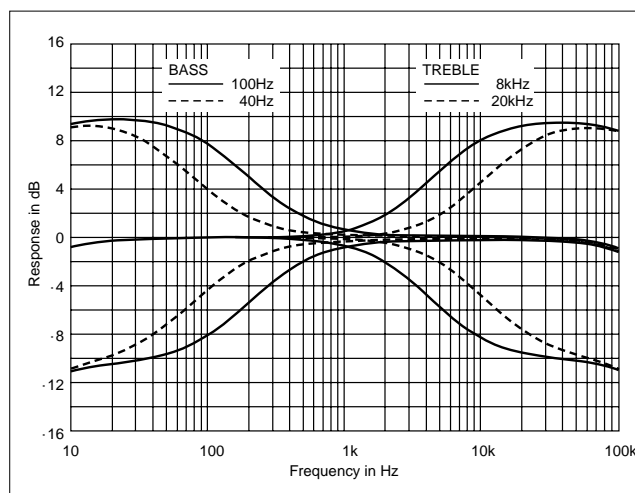
センターから左に回して低音減衰 : 0 ~ -8dB
 センターから右に回して低音増強 : 0 ~ +8dB

TREBLE 高音コントロール



高音部(8kHzまたは20kHz)の周波数特性を連続可変でコントロールします。

センターから左に回して高音減衰 : 0 ~ -8dB
 センターから右に回して高音増強 : 0 ~ +8dB

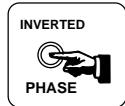


トーン・コントロール特性

4 PHASE 出力位相切替ボタン

出力の位相を切り替えます。

通常出力信号は入力信号と同相ですが、このボタンを押すと出力の位相が反転(180°)して、出力信号は入力信号と逆相になります。



押しで「INVERTED (逆相)」:「INV」LED点灯
再び押すと同相 :「INV」LED消灯

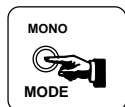
逆相時のバランス出力コネクターの極性は、次の矢印のように変わります。

- ① : グラウンド
- ② : インバート(-) ⇄ ノン・インバート(+)
- ③ : ノン・インバート(+) ⇄ インバート(-)

5 MODE モード切替ボタン

ステレオとモノフォニックを切り替えます。

モノフォニックでは、左右チャンネルの信号がミックスされ、スピーカーの中央で聴くと音像はセンターに定位します。



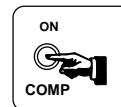
押しで「MONO (モノフォニック)」:「MONO」LED点灯
再び押すとステレオ再生 :「MONO」LED消灯

注意

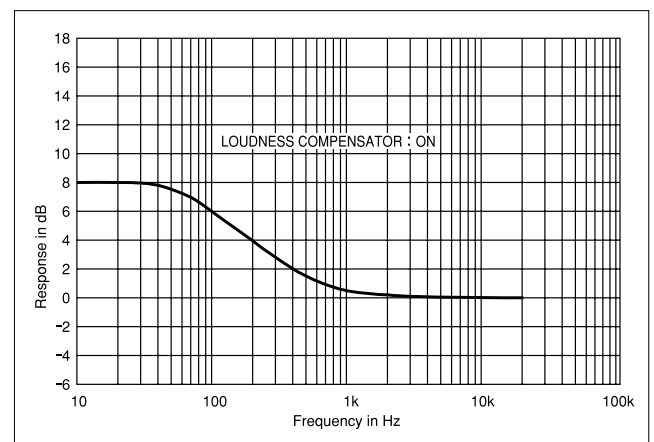
RECORDERスイッチをSOURCEに切り替えるとモノフォニックは自動的に解除されます。モノフォニックで録音するには、SOURCEに切り替えたあと改めてMODEスイッチを押して「MONO」にしてください。

6 COMP コンペンセ-タ-(聴感補正)ボタン

小音量で聴く場合の聴感上のエネルギー・バランスを調整するスイッチです。人間の聴感特性はボリュームを下げたときには、そのときの音量によって低音や高音が不足してきます。この量感を補うために、本機は低音100Hzを+6dB上昇させることができます。



押しで「ON」 :「COMP」LED点灯
再び押すと「OFF」 :「COMP」LED消灯



コンペンセーター特性

7 COPY コピー・スイッチ

レコーダーを2台使って、相互にコピーをする場合に使用します。

1 2, 2 1

RECORDER 1に接続したレコーダーをマスターにして、RECORDER 2に接続したレコーダーにコピーする場合は、「1 2」ポジションにします。

逆の場合は「2 1」ポジションにします。

OFF

コピーしない場合には、このポジションにします。

8 RECORDER レコーダー・スイッチ

"REC OFF"以外のポジションでは、録音可能となり、機能ディスプレイ部に"REC ON"のLEDが点灯します。

REC OFF

通常(録音しない場合)はこのポジションにします。入力セクターで選択するプログラムソースを演奏しますが、レコーダー録音用"REC"端子に信号は出力されません。

SOURCE

レコーダーを使用して録音する場合にはこのポジションにします。入力セクターで選択されたプログラムソースを演奏すると同時に、レコーダー録音用"REC"端子に信号が出力され、録音が可能になります。

なお、このポジションを選択するとモノフォニックは解除されます。モノフォニックで録音するには、MODEスイッチを押し"MONO"にしてください。

1, 2

レコーダーを再生する場合にはリアパネルの"RECORDER 1"及び"RECORDER 2"へ接続したレコーダーをこのスイッチで選択します。録音時にこのポジションに切り替えると、そのとき録音している状況をモニターすることができます(3ヘッド・テープレコーダーの場合)

9 BALANCE バランス調整

左右の音量バランスを調整することができます。

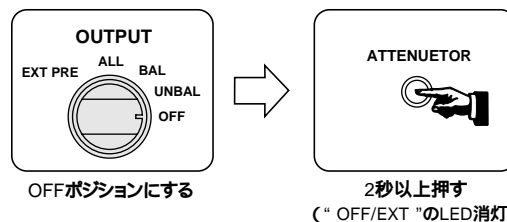
10 PHONES ヘッドフォン出力ジャック

ヘッドフォンのプラグをこのジャックに差し込んでください。ヘッドフォンを差し込むと、OUTPUTS出力が切れ、機能ディスプレイ部の"OFF/EXT"のLEDが点灯します。ヘッドフォンのレベルは本機のボリュームでコントロールしてください。

インピーダンス8~100 のヘッドフォンをご使用ください。
2 OUTPUTスイッチで"EXT PRE"を選択した場合でも、本機でインプット・セクターやレコーダー・スイッチで選択された信号がヘッドフォンから出力されます。

注意:演奏中ヘッドフォンのプラグを抜くと、スピーカーから音が出ます。急に大きな音が出ないように、音量に注意してください。

ヘッドフォンを差し込んで、OUTPUTS出力が切れないように設定変更することができます。設定が変更されると"OFF/EXT"のLEDが消灯し、変更されたことを示します。OUTPUTスイッチを回すと、LEDの表示は通常に戻ります。



設定変更

2 OUTPUTスイッチをOFFにする

11 ATTENUATORボタンを2秒以上押し続ける

*OUTPUTスイッチがOFF以外の場合、ヘッドフォンを差し込んでも出力は切れません。

したがって、ディスプレイ部の"OFF/EXT"のLEDはヘッドフォン使用時でも点灯しません。

*ヘッドフォンだけで聴く場合は、OUTPUTスイッチをOFFにしてください。"OFF/EXT"のLEDが、点灯します。

初期(工場出荷)状態に戻す

2 OUTPUTスイッチをOFFにする

11 ATTENUATORボタンを2秒以上押し続ける

*ヘッドフォンを差し込むと、OUTPUT出力が切れます。"OFF/EXT"のLEDが、点灯します。

11 ATTENUATOR アッテネ - タ -

本機の出力レベルを標準状態から瞬時に音量を下げるすることができます。減衰量は - 20dBです。



押しで"ON" : 「ATT」LED点灯
 再び押すと"OFF" : 「ATT」LED消灯

12 INPUT SELECTOR 入力セレクタ -

リアパネルの各入力端子を選択しLEDの点灯で表示します。リモートコマンダーRC-20でも同様に切り替えることができます。

CD、TUNER、LINE 1、2

一般的なアンバランス方式で、リアパネルの各入力端子へ接続した機器を選択します。

CD-BAL、LINE-BAL

リアパネルの入力端子へ、バランス方式で入力した機器を選択します。

OPTION 1、2

リアパネルのオプション・スロットに増設した入力端子を選択します。

オプション・ボードの種類は13、14ページ参照

INPUT SELECTORノブには指標がなく、エンドレス(ストップバーのない)のロータリースイッチを使用しています。

13 機能ディスプレイ部

各スイッチやボタンの動作ポジションなどを、LEDの点灯により表示します。

LED点灯		動作状態
OUTPUT	OFF/EXT	OUTPUTS : 出力" OFF ", " EXT PRE "動作時 ヘッドフォン使用時(プラグを差し込む, 10参照)
	INV	PHASEボタンON 出力の位相が反転" INVERTED "
TONE CONTROL	ON	BASS, TREBLE:動作状態
	40Hz	40HzでBASSのコントロール
	20kHz	20kHzでTREBLEのコントロール
MODE	MONO	MODEボタンON : モノフォニック動作
COMP	ON	COMPボタンON コンペンセーター動作中
COPY	ON	COPYスイッチ" OFF "以外 " 1 2 " または " 2 1 " ヘコピー可能
REC	ON	RECORDERスイッチ " REC OFF " 以外で録音可能状態
ATT	ON	ATTENUATORボタンON アッテネーター動作中

14 リモート・センサー

本機に付属しているリモート・コマンダーRC-20の赤外線信号を受信する窓です。リモート・コマンダーを使用するときは、発光部をここにに向けてください。(9ページ参照)

15 VOLUME ボリューム調整

右へ回すと音量が増大し、左に回すと小さくなります。リモート・コマンダーRC-20でも同様に動作させることができます。入力切替、電源を切るときはボリュームを下げてください。

AAVA方式とは

C-2000は、新方式のボリューム・コントロールAAVA(Accuphase Analog Vari-gain Amplifier)を搭載しています。AAVAは、従来の抵抗体による音量調整とは全く異なり、16段階に重み付けされた音楽信号を電流スイッチ回路で切り替え、それによって音楽信号の大きさを変える、画期的なボリューム・コントロール方式です。実際の動作は従来ボリュームを使用し、それを回して調整位置を検出、電流スイッチのON/OFFによってボリューム値を決定しています。

注意

高効率スピーカーをご使用の場合、ボリュームを回転するときに、『電流スイッチの切替動作音』が聞こえる場合があります。この動作音は異常ではありません。

16 CD、TUNER、LINE 1、2 入力端子(アンバランス)

アンバランス方式の一般的なハイレベル入力端子です。

*本機のLINE最大入力電圧は6Vです。

17 CD/LINE INPUTS(BALANCED) バランス入力コネクタ -

外来誘導雑音の排除能力に優れた、バランス伝送用入力コネクタです。CDプレーヤーやチューナーなどのバランス出力を持つ機器を接続してください。

ピンの極性は

- ① : グラウンド
- ② : インバート(-)
- ③ : ノン・インバート(+)

となっておりますので、ソース側の機器との極性を合わせて正しく接続してください。

*本機のLINE最大入力電圧は6Vです。

*バランス用オーディオ・ケーブルは当社で別売しています。

18 RECORDER 1 / RECORDER 2 レコ - ダ - 再生 / 録音端子

2系統のレコーダーを接続することができます。

“PLAY”端子 ⇔ レコーダーの“LINE OUT”
“REC”端子 ⇔ レコーダーの“LINE IN”

- * REC端子の出力信号は、本機のボリューム、トーンコントロール、コンペンセーターなどの影響を受けません。
- * RECORDERの“SOURCE”ポジションに於いてMODEボタンがMONOになっていると、REC端子の信号もモノフォニックになります。録音時にはご注意ください。

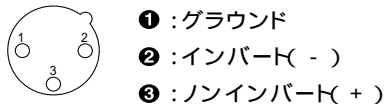
19 OUTPUTS 1、2 出力端子(アンバランス)

通常のピンプラグ付オーディオ・ケーブルで、パワーアンプの入力端子と接続します。

20 OUTPUTS バランス出力コネクター

外来誘導雑音の排除能力に優れた、バランス伝送用出力コネクターです。パワーアンプが、バランス入力コネクターを装備している場合には、良質なオーディオ信号の伝送が可能です。

ピンの極性は、次のようになっています。



パワーアンプ側の極性を確認して接続してください。

入力ソース側またはパワーアンプ側の極性が本機と逆の場合は、PHASEボタンで合わせます。
バランス用オーディオ・ケーブルは当社で別売しています。

21 EXT PRE INPUTS 外部プリアンプ入力端子(アンバランス)

外部のプリアンプ出力を、アンバランス接続で入力します。
OUTPUTスイッチをEXT PREポジションにすると、この端子の入力信号は19 OUTPUTS(アンバランス出力端子)に出力されます。

22 EXT PRE INPUTS 外部プリアンプ入力端子(バランス)

外部のプリアンプ出力を、バランス接続で入力します。
OUTPUTスイッチをEXT PREポジションにすると、この端子の入力信号は20 OUTPUTS(バランス出力端子)に出力されます。

23 SWITCHED 電源スイッチと連動するACコンセント

本機と接続する機器の電源をこのコンセントから取ると、電源スイッチをON/OFFすることにより、他の機器の電源も同時にON/OFFすることができます。

⚠ 注意

接続する機器の消費電力は400Wを超えないようにする。

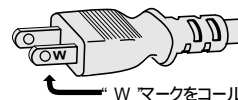
24 AC電源コネクター

付属の電源コードを接続します。

⚠ 警告

電源は必ずAC100V、50/60Hz家庭用コンセントを使用する。

電源コードの極性表示について
本機は、トランスの巻き方向、部品の配線など極性を管理して、電源プラグのコールド側に『W』マークを刻印しています。機器の接続を統一したい場合は参考にしてください。



注意

室内コンセントの極性は一般に、向かって左側(穴が右に比べて大きい)がコールド側です。
大地に対する電位は屋内配線の状況によって変化します。このためチェッカーなどを使用して測定した場合、電位が逆表示されることがあります。
本機のSWITCHEDコンセントは、下側がコールド側です。

5. リモート・コントロール

リモート・コマンダーRC 20の取り扱い方

本機に付属しているリモート・コマンダーRC-20を使うと、離れたところから次の機能をコントロールすることができます。

① INPUT SELECTOR - 入力セレクター

リアパネルの各入力端子に対応するプログラム・ソースを選択します。各ボタンを押しますと、INPUT SELECTORノブの外周に、選択された入力ポジションのLEDが点灯します。

② VOLUME - ボリューム調整

本体ボリュームと連動しており(+)ボタンを押し続けると、ボリューム・ノブが右に回転し音量が増大します。また、(-)ボタンを押し続けると左に回転し音量は減少します。

使用法

リモート・コマンダーの発光部を本体の⑭リモート・センサーに向けて、図の範囲内でお使いください。

落としたり、内部に液体をこぼしたりしないでください。

直射日光の当たる所や暖房器具のそばなど、温度や湿度の高い場所に置かないようにしてください。

電池について

電池の交換時期

電池は普通に使って約8ヵ月は動作しますが、操作距離が短くなってきたら交換時期です。完全に消耗しますと、ボタンを押してもコントロールできなくなります。

使用する電池は、単3形を2個、両方とも新しい電池に交換してください。

注意

乾電池は正しく使わないと、液漏れや破裂などの危険があります。

電池の向きはコマンダーのケースに示されている通り、⊕(プラス) ⊖(マイナス)を正しく合わせる。

新しい電池と、一度使用したものを混ぜない。

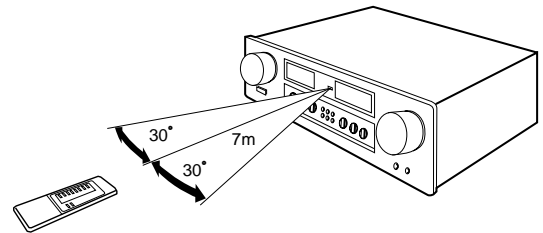
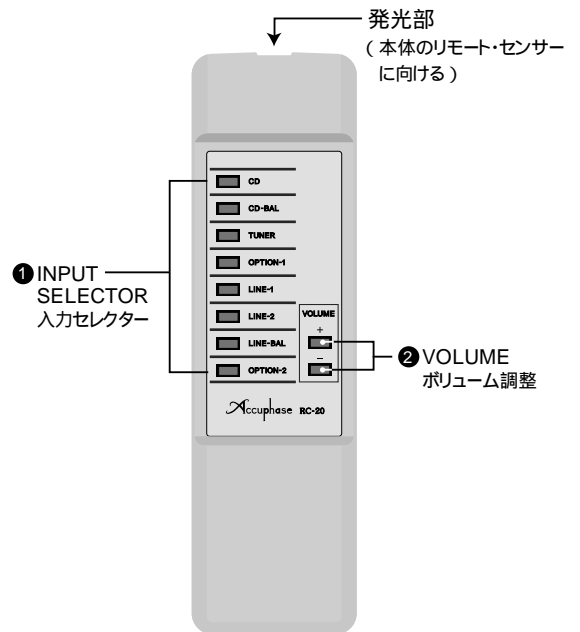
種類の違う乾電池を混ぜて使用しない。同じ形状でも、性能の異なるものがあります。

長時間にわたりコマンダーを使わないときは、電池を抜いておく。万一、液漏れを起こしたときは、当社品質保証部にご連絡ください。漏れた液体が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

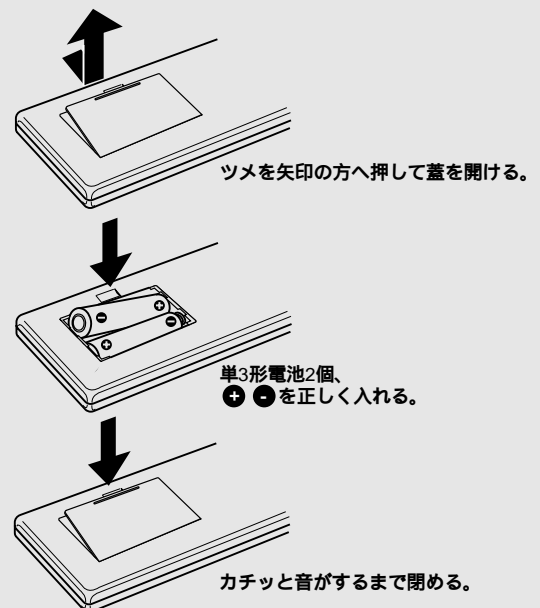
警告

乾電池は充電しない。

電池の破裂や、液漏れにより、火災やけがの原因となります。



乾電池の交換



6. ご使用方法



注意

各機器を接続する場合には、必ずC-2000や各機器の電源を切る。

使用される前にボタン、ノブ、スイッチの位置を確認します

VOLUME	: 下げた(左にまわしきった)状態
OUTPUT	: ALL
COPY	: OFF
RECORDER	: REC OFF
MODE	: STEREO(LED消灯)
PHASE	: 正相(LED消灯)
TONE CONTROL、COMP、ATTENUATOR	: OFF(LED消灯)
BALANCE	: センター

CDプレーヤー(アナログ出力)の演奏

CDプレーヤーのアナログ出力をリアパネルのCD入力端子(またはTUNER、LINE端子)へ接続してください。また、CDプレーヤーがバランス出力を装備している場合は、バランス用'CD/LINE INPUTS'端子も使用することができます。

演奏の手順

VOLUMEが下がっていることを確認し、本機と共にCDプレーヤー、パワーアンプの電源を"ON"にしてください。

入力セレクターでCDポジション(または入力したポジション)を選択してください。

CDプレーヤーを演奏状態にして、VOLUMEを上げると演奏が聴こえてきます。ボリュームを調節して再生状態を確認してください。

MODEスイッチをモノフォニック状態にし、音像が中央に定位することを確認したり、トーンコントロール、コンペンセーター、アッテネーターなどの効き具合をお試しください。

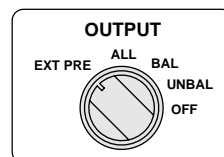
チューナーで放送を聴く場合

チューナーの出力ケーブルをTUNER入力端子(またはCD、LINE端子)へ接続します。また、チューナーがバランス出力を装備している場合は、バランス用'CD/LINE INPUTS'端子も使用することができます。

CD再生と同じ要領で入力セレクターを合わせ、他のスイッチ類のポジションを確認してください。チューナーが放送局に同調していれば、ボリュームを上げると放送が聴こえます。

外部プリアンプでの演奏

OUTPUTスイッチで『EXT PRE』を選択するとC-2000の回路をパスすることができます。別系統のプリアンプに切り替えてステレオ演奏を楽しむことができます。



EXT PREポジションにする

入・出力の接続 (2ページの接続図参照)

アンバランスの場合

21 EXT PRE INPUTSのLEFT / RIGHTに入力 ⇔ 19 OUTPUTS 1, 2のLEFT / RIGHTから出力

バランスの場合

22 EXT PRE INPUTSのLEFT / RIGHTに入力 ⇔ 20 OUTPUTSのLEFT / RIGHTから出力

本機の電源をOFFにしても同様に動作します。

全てのコントロールは接続した別のプリアンプで行います。

ヘッドフォンには本機の入力セレクターやレコーダー・スイッチで選択した信号が出力されます。

レコ - ダ - で録音・再生をする場合

リアパネルのRECORDER 1(またはRECORDER 2)にレコーダーを接続します。

PLAY 端子	レコーダーのLINE OUT端子
REC 端子	レコーダーのLINE IN端子

再生: プレイバック

RECORDERスイッチで " 1 "または" 2 "ポジションに合わせ、レコーダーを再生状態にすれば再生音を聴くことができます。

レコーダーを再生だけに使用する場合は、各ライン入力端子を使うことができます。

録音: レコ - ディング

レコーディングの操作手順

録音するプログラム・ソースを入力セクターで選択し、スピーカーから音を出して確認してください。

RECORDERスイッチをSOURCEポジションにします。レコーダーへの信号がREC端子から出力されます。

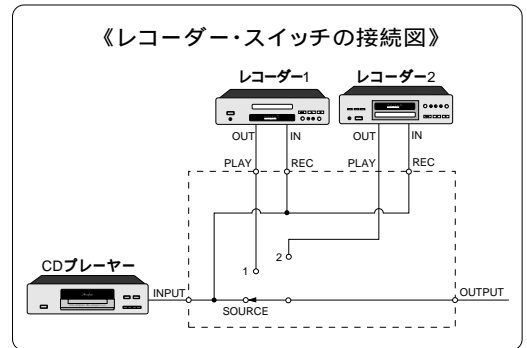
レコーダーの録音をスタートすれば、スピーカーから出ている音が録音されます。

本機のボリューム、トーンコントロール、バランスなどは、録音される音には関係しませんので音量を下げて静かに録音することができます。録音レベルは、レコーダー側で調整してください。

なお、MODEボタンがモノフォニック状態(LED点灯)になっていると、録音出力もモノフォニックになってしまいますから注意してください。

RECORDERスイッチを" 1 "または" 2 "ポジションへ切り替えると、録音を続けながら、録音されたテープのモニターができます。(3ヘッド・テープレコーダーの場合)

RECORDER 1, 2の各REC端子には同じ信号が出力されますので、2台のレコーダーで同時録音も可能です。



注意

RECORDERスイッチをSOURCEに切り替えるとモノフォニックは自動的に解除されます。モノフォニックで録音するには、SOURCEに切り替えたあと改めてMODEボタンを押して" MONO "にしてください。

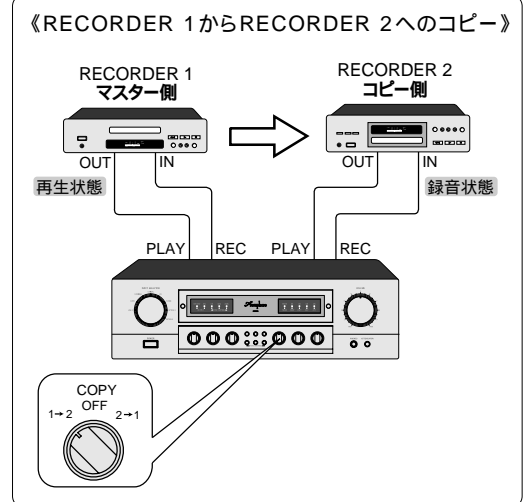
コピー

本機にはCOPYスイッチがついていますので、他のプログラム・ソースを聴きながら、独立してレコーダー相互間でコピーすることが可能です。ただし、電源OFF時にはできません。

コピーの操作手順

RECORDER 1側をマスターとしてRECORDER 2へコピーする場合は、コピー・スイッチを" 1 2 "ポジションにします。逆の場合は" 2 1 "にしてください。マスター側のレコーダーを再生状態、コピー側のレコーダーを録音状態にすればコピーができます。

" 1 2 "でコピーをしている場合は、RECORDERスイッチを" 1 "にするとマスター・テープの音がモニターできます。また、" 2 "にするとコピー側のモニターができます。" 2 1 "のときは逆になります。



電源 OFF時のチューナー録音

電源OFFの場合には、リアパネルのTUNER端子に接続されている信号が、RECORDERのREC端子に出力されます。入力セクターやRECORDER、COPYスイッチなどの位置に関係ありませんから、チューナーなどをタイマーで留守録音するときには、本機の電源を入れなくても録音が可能になります。

7. オプション・ボード

C-2000のオプションとして、デジタル入力ボードDAC-10、アナログ・ディスク入力ボードAD-10、ライン入力ボードLINE-10の3種類が用意されています。用途に応じて、リアパネルのオプション用スロット(OPTION 1または2)に増設してください。

オプションを抜き差しするときは、必ず本機の電源を切ってから行ってください。
2個のスロットに、任意のオプション・ボードを2枚まで増設することができます。同一ボード2枚の増設も可能です。
アナログ・ディスク入力ボードAD-9、ライン入力ボードLINE-9も使用できます。

オプションの使用方法

CDなどをデジタル入力で演奏

オプションで、デジタル入力ボード(DAC-10)を増設します。

CDプレーヤー、DAT、MDなどのデジタル出力(サンプリング周波数96kHzまでの音楽信号)を、同軸または光ファイバーで接続して演奏します。

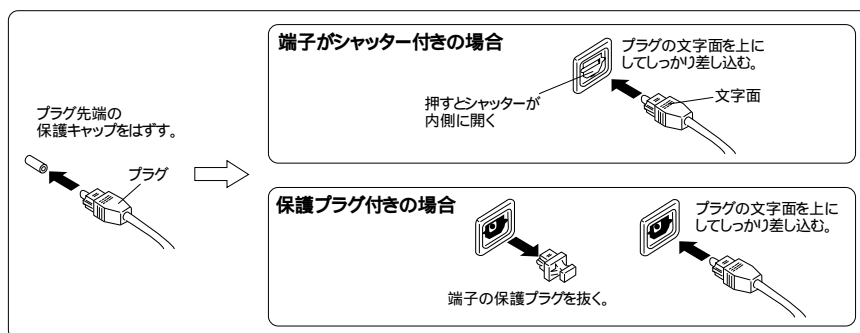
接続ケーブル

COAXIAL 端子

ピンプラグ付75 同軸ケーブルで接続してください。

OPTICAL 端子

EIAJ規格の光ファイバー接続用端子です。



演奏の手順

ボリュームが下がっていることを確認し、本機や関連機器の電源スイッチを入れます。入力セレクターで、DAC-10を増設したスロット(OPTION 1または2)を選択します。

入力機器を演奏状態にして、VOLUMEを上げると演奏が聴こえてきます。ボリュームを操作して再生状態を確認してください。

注意

COAXIALとOPTICALの両端子に機器を接続した場合に備え、OPTICAL優先自動切替方式を採用しています。

同時に両信号を入力した場合は、OPTICAL(光ファイバー)で入力したソースを優先して演奏します。

COAXIAL信号を演奏する場合は、OPTICALの接続をはずすか、OPTICALでの入力機器の電源を切ってください。

同軸ケーブルの信号を演奏中に、光ファイバーの信号が入ると光ファイバー入力の演奏に切り替ります。

アナログ・ディスク(AD)の演奏

オプションで、アナログ・ディスク入力ボード(AD-10)を増設します。

挿入前に、ボードにあるディップ・スイッチの設定(14ページ参照)をします。

MM/MCの設定

MCの場合は入力インピーダンスの選択:10/30/100

サブソニック・フィルターのON/OFF

レコード・プレーヤーの出力ケーブルを入力端子へ正しく接続してください。プレーヤーの出力ケーブルと一緒に出てくるアース線はGND(グラウンド)端子へ接続します。

演奏の手順

ボリュームが下がっていることを確認し、本機や関連機器の電源スイッチを入れます。入力セクターで、AD-10を増設したスロット(OPTION 1または2)を選択します。

レコード針をレコード面におろし、ボリュームを上げると演奏が聴こえてきます。ボリュームを操作して再生状態を確認します。

レコードに大きな反りがあったり、超低域の振動でスピーカーの振動板がゆれたりする場合は、サブソニック・フィルターをONに設定すると、可聴帯域への影響を軽減することができます。

オプションの種類

ライン入力ボード

LINE-10

希望小売価格 8,000円(税込 8,400円)

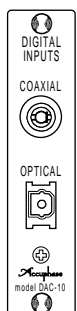


本体のINPUTSと同じ、アンバランス方式の一般的なハイレベル入力端子です。CDプレーヤー、チューナーなどアナログ信号の入力端子として使用します。

デジタル入力ボード

DAC-10

希望小売価格 50,000円(税込 52,500円)



同軸、光ファイバーの入力端子を装備しています。デジタル機器のデジタル音楽信号を入力することができます。

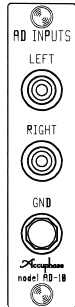
接続ケーブル

COAXIAL : 75 同軸ケーブルで接続
OPTICAL : 光ファイバーで接続
(OPTICAL優先自動切替)

保証特性、適合規格

入力フォーマット : EIAJ CP-1201/AES 3に準拠
サンプリング周波数 : 32kHz ~ 96kHz
デジタル入力 : COAXIAL 0.5Vp-p 75
OPTICAL -27 ~ -15dBm

アナログ・ディスク入力ボード AD-10 希望小売価格 50,000円(税込 52,500円)



アナログ・レコードを再生します。高性能ハイゲイン・イコライザーを搭載していますから、いろいろな種類のカートリッジに対応することができます。

このボードを2枚増設すると、2種類のカートリッジに対応することができます。

LEFT, RIGHT - アナログ・プレ・ヤ - 入力端子

この入力端子には、アナログディスク・プレーヤーの出力ケーブルを接続します。

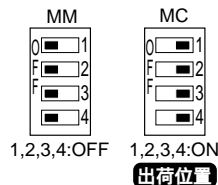
GND - アース端子

アナログ・プレーヤーの出力ケーブルと一緒に出ているアース線を接続します。

挿入前に、ボード上にあるディップ・スイッチの設定をします。

注意 スイッチの各キーは、先の細いもので完全にセットしてください。
指定以外の設定では所定の特性が得られません。

S1, S2: MM/MC - イコライザーゲインの切替



MM: 高出力電圧のMM型カートリッジ

ゲイン : 36dB

入力インピーダンス : 47k

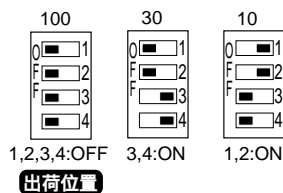
MC: 出力電圧が低いMC型カートリッジ

ゲイン : 62dB

入力インピーダンス : S3で切り替え

S1, S2の両スイッチとも必ず同じ設定にしてください。

S3: MCの入力インピーダンスの選択



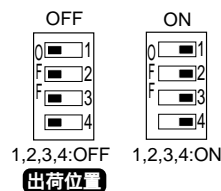
一般的には、MCカートリッジの内部インピーダンスが
20 以上: 100 に設定

20 以下: 30 または 10 に設定

カートリッジの内部インピーダンスの2~3倍以上を目安にしますが、実際に試聴して良い音質の得られるインピーダンスを決定してください。

S3は左右チャンネル同時に設定されます。

S4, S5: サブソニック・フィルターのON/OFF



このフィルタ - は、超低域25Hz以下を -12dB/octave という急峻な特性でカットし、超低域ノイズが可聴帯域内へ悪影響をおよぼすことを防ぎます。レコードに大きな反りがあったり、超低域の振動によりウーファーがゆれたりするときに大変有効です。

S4, S5の両スイッチとも必ず同じ設定にしてください。

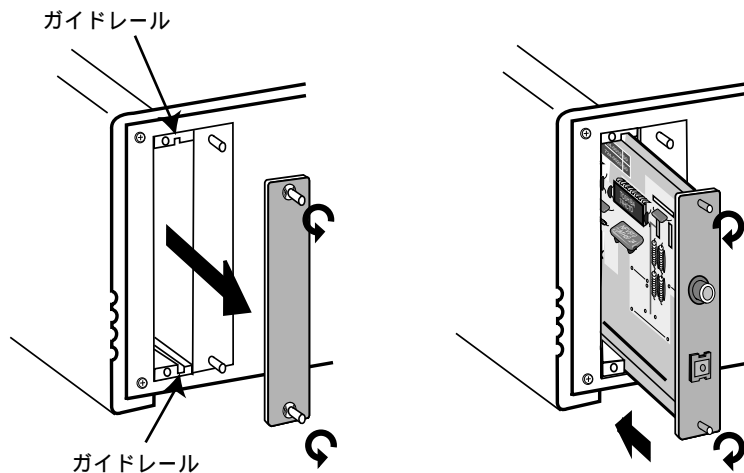
オプションの取り付け方法

C-2000の電源を切ります。

リアパネルのオプション用スロットのサブパネルをはずします。

オプション用スロットの上下のガイドレールに沿って、オプション・ボードを挿入します。コネクターに当って止まったら、少し力を入れてコネクターを完全に差し込みます。(パネル面が同一になればOKです。)

上下のネジ2カ所で確実に固定します。



*挿入のイラスト図は、DAC-10を示します。

⚠ 注意

オプションを抜き差しするときは、必ずC-2000の電源を切る。

電源を入れたまま抜き差しすると、故障の原因となります。

部品面やハンダ面、コネクターの接点部分を手で触らない。

手で触ると接触不良や回路が故障する原因となることがあります。ボードを持つ場合にはプリント板の外周やパネル部を持ってください。

オプションの取り付けネジ(2カ所)は手で完全に締める。

締めつけが不十分ですと、端子がグラウンドから浮いて接触不良となり、故障の原因となることがあります。

8. 保証特性

*保証特性はEIA測定法RS-490に準ずる。

周波数特性

BALANCED/UNBALANCED INPUT			
3	~	200,000Hz	+0 - 3.0dB
20	~	20,000Hz	+0 - 0.2dB

全高調波ひずみ率(全ての入力端子にて)

0.005%

入力感度・入力インピーダンス

入力端子	入力感度		入力インピーダンス
	定格出力時	0.5V出力時	
BALANCED	252mV	63mV	40k
UNBALANCED	252mV	63mV	20k

定格出力・出力インピーダンス

BALANCED/UNBALANCED OUTPUT	2V	50
RECORDER REC	252mV	200

S/N・入力換算雑音

入力端子	入力ショート(A補正)		EIA S/N
	定格出力時S/N	入力換算雑音	
BALANCED	108dB	-120dBV	107dB
UNBALANCED	108dB	-120dBV	107dB

最大出力レベル(ひずみ率 0.005% 20~20,000Hz)

BALANCED/UNBALANCED OUTPUT	: 7.0V
RECORDER REC	: 6.0V

LINE最大入力電圧

BALANCED/UNBALANCED INPUT	: 6.0V
---------------------------	--------

最小負荷インピーダンス

BALANCED/UNBALANCED OUTPUT	: 600
RECORDER REC	: 10k

ゲイン

BALANCED/UNBALANCED INPUT	BALANCED/UNBALANCED OUTPUT	: 18dB
BALANCED/UNBALANCED INPUT	REC OUTPUT	: 0dB

トーン・コントロール

低音/高音の周波数切替および可変範囲

低音	: 40/100Hz切替	± 8dB
高音	: 8k/20kHz切替	± 8dB

コンペンセーター + 6 dB(100Hz)

アッテネーター - 20dB

ヘッドフォン端子 適合インピーダンス 8 ~ 100

電源 AC100V 50/60Hz

消費電力 30W

最大外形寸法

幅465mm × 高さ150mm × 奥行405mm

質量 16.2kg

付属リモート・コマンダー RC-20

リモコン方式 : 赤外線パルス方式

電源 : DC 3V・乾電池 単3形2個使用

最大外形寸法 : 55mm × 194mm × 18mm

質量 : 100g(電池含む)

本機の特長および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

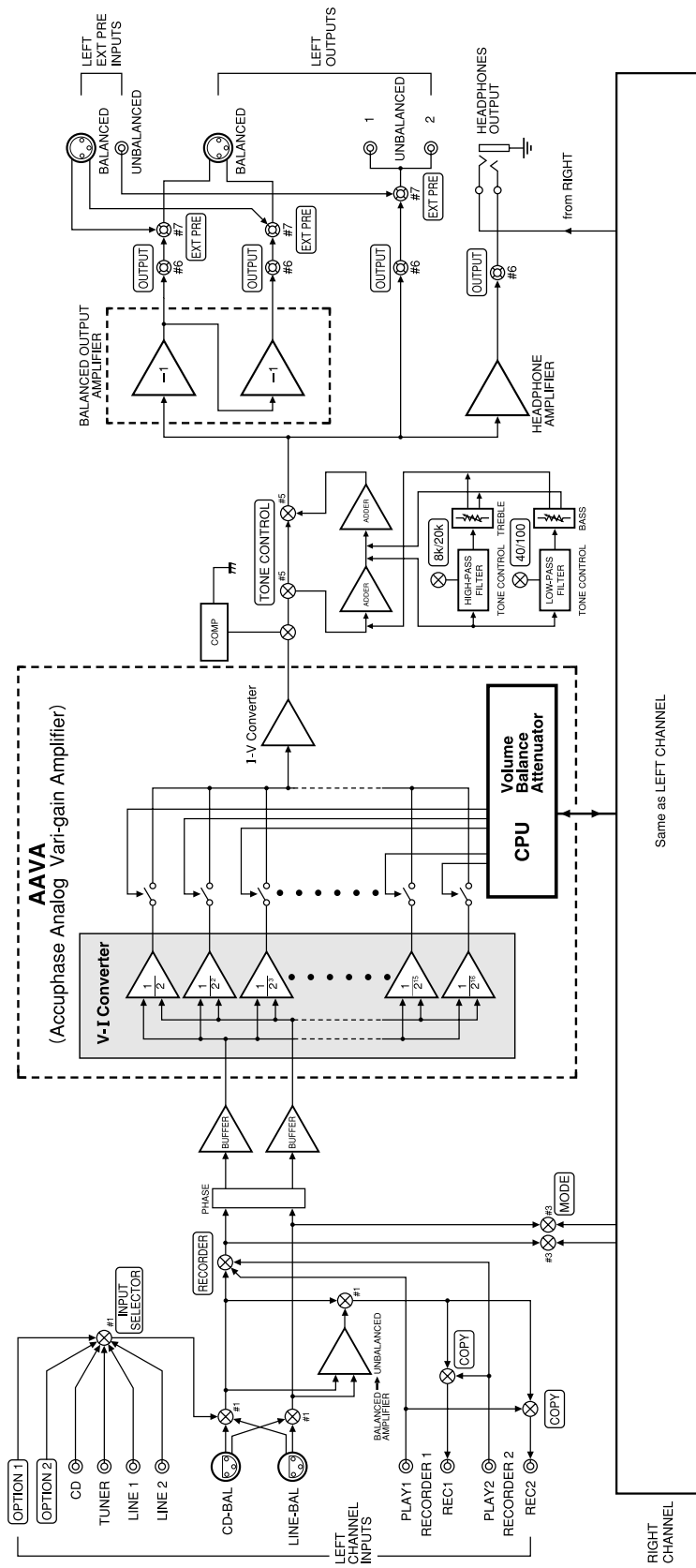
著作権について

放送や録音物(CD、テープなど)から、あなたが録音したものは、個人として楽しむ以外、権利者に無断で使用することはできません。音楽作品は著作権法により保護されています。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。特に静かな夜間には、音量に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドホーンをご使用になるのも一つの方法です。

9. ブロック・ダイアグラム



10. 故障かな？と思われるときは

故障かな？と思われるときは、修理を依頼される前に、下記の項目をチェックしてください。
これらの処置をしても直らない場合には、当社品質保証部または当社製品取扱店にご連絡ください。



注意

：接続を変える場合には、必ず各機器の電源を切る。

電源が入らない

電源コードが抜けていませんか。

音がでない

ソース側機器やパワーアンプの電源は入っていますか。

接続コードは正しく接続されていますか。

入力や出力切替スイッチの位置を確認してください。

ヘッドフォンをジャックに差していませんか。

工場出荷状態では、ヘッドフォンを差すとOUTPUTSからの出力は切れます。

(注意) ボリュームを絞ってからヘッドフォンを抜いてください。

片側のスピーカーから音が出ない

接続コード、スピーカー・コードは正しく接続されていますか。

ソース側機器や本機のスイッチ類は正しい位置ですか。

(バランスの位置など)

本機とパワーアンプ間の接続コードを左右入れ替えてください。

同じ側から音がでない..... パワーアンプやスピーカー側に原因が考えられます。

左右逆の状態になる..... 本機やソース側機器に原因が考えられます。

次に本機への入力接続コードを左右入れ替えてください。

同じ側から音がでない..... 本機に原因が考えられます。

左右逆の状態になる..... 接続コードやソース側機器に原因が考えられます。

リモート・コマンダーで操作できない

電池は入っていますか。

新しい電池に交換してみましょう。

受光部付近に障害物はありませんか。

11. アフターサービスについて

保証書

保証書は本体付属の「お客様カード」の登録でお送りいたします。
 保証書の記載内容により、保証期間はご購入日から3年間です。
 保証書がない場合には、保証内修理をお断りする場合があります。よくお読みのうえ、大切に保存してください。
 オプション・ボードやオプション・ユニットにはお客様カードは付属していません。

保証期間が過ぎてしまったら

修理によって性能を維持できる場合には、ご希望により有料で修理いたします。
 補修部品の保有期間は経済産業省指導により、製造終了後最低8年間となっています。
 使用期間が相当経過している場合には、当社品質保証部にお問い合わせください。



注意

保証期間以降、長期に渡ってご使用の場合には、当社の定期的な点検をお勧めします。

その他

改造されたものは修理ができない場合がありますのでご了承ください。
 本機の故障に起因する付随的損害(営利的使用に関する諸費用、使用により得られる利益の損失等)については補償できません。
 AC100V以外(海外)では使用できません。

保証は日本国内のみ適用されます。
 Accuphase warranty is valid only in Japan.

お問い合わせは

ご質問、ご相談は当社品質保証部または当社製品取扱店にお問い合わせいたします。

アキュフェーズ株式会社 品質保証部
 〒225-8508 横浜市青葉区新石川2-14-10
 TEL 045(901)2771(代表)
 FAX 045(901)8995

当社のホームページ上でも修理の問い合わせが可能です。
<http://www.accuphase.co.jp/service/>

修理依頼の場合には

“故障かな?と思われるときは”をご確認後、直らない場合には、電源プラグをコンセントから抜き、修理を依頼してください。

次の内容をお知らせください。(保証書参照)
 モデル名、シリアル番号 ご住所、氏名、電話番号
 ご購入日、ご購入店 故障状況:できるだけ詳しく

梱包材は、輸送時に必要となりますので、保管しておいてください。



ACCUPHASE LABORATORY INC.
アキュフェーズ株式会社

横浜市青葉区新石川2 14 10
〒225 8508 TEL(045)901 2771(代)